

金沢八景ふしぎな浮世絵



制作

ストーリー：金沢区役所 昔ばなし紙芝居プロジェクトチーム

イラスト：村井由紀子

あらすじ

金沢八景の浮世絵を見ていたかいとくん。その浮世絵に、かいとくんが飼っている三毛猫カナカナが吸い込まれてしまいます。かいとくんの秘密基地・牡丹園から出てきたぼたんちゃんはいとくんと一緒に江戸の世界にひとつ飛び。浮世絵を描いた歌川広重と一緒に、浮世絵の世界を巡りながらカナカナを探します。

金沢八景のうち、「平瀨落雁」「称名晩鐘」「野島夕照」「瀬戸秋月」4つの勝景を皆で一緒に巡ります。なかなか見つからないカナカナでしたが、行きついた料亭で発見し、月を見ながら皆で美味しく月見団子を食べました。

紙芝居にまつわるエピソード

①金沢八景

金沢の8つの勝景をあてはめたもので、元禄の頃に心越禅師が能見堂から金沢の眺望を中国の瀟湘八景になぞらえて命名したと伝えられています。作品に出てくる「平瀨落雁」「称名晩鐘」「野島夕照」「瀬戸秋月」のほか、「洲崎晴嵐」「小泉夜雨」「乙壱帰帆」「内川暮雪」の4つがあります。

金沢八景をモチーフにして、多くの浮世絵や絵葉書が発行されましたが、特に歌川広重の描いたものが有名で、このストーリーでも歌川広重が描いた浮世絵を忠実に再現しています。

②金沢猫

この作品で登場する猫「カナカナ」は、金沢の民話「金沢猫」をモチーフとしています。

金沢猫は、今から約800年前、唐（今の中国）から三艘（今の平瀨湾）に船がやってきた際に乗り合わせていた唐猫です。船が唐に戻る際に船に戻らなかったため、唐には帰れませんでした。その後日本で村人の優しさに包まれて暮らし、多くの子孫を残しました。

この猫は、当時珍しい尻尾の短い三毛猫でした。背中を撫でると普通の猫とは反対に背中を持ち上げるので、可愛いと珍しがられ、その愛らしさから「カナカナ」と呼ばれ、評判になりました。

千光寺（六浦）に供養のための「猫塚」が今でも残されています。